

新情報・旧情報の概念に基づく 談話分析への一批判

<Remarks on Discourse Analysis Based on
New and Old Information>

山 岡 實

0 序

この小論は、新情報 (new information)・旧情報 (old information) の概念に基づいて、現在行われている、ある特定の倒置構文の機能分析を批判し、談話分析への一つの方向を提起することにある。

1 新情報・旧情報と談話分析

英語文の談話構造 (discourse structure) の視点からの考察という名目で、談話分析に情報構造上の単位、すなわち、新情報と旧情報という概念がよく用いられる。特に、以下で述べる倒置構文を分析する際、この両概念が用いられるのが普通となっている。

新情報・旧情報という概念は、本来、話しことばとしての英語 (spoken English) の情報構造を分析する際に用いられた概念であるが、最近では、もとの意味がかなり拡大され (特に旧情報)、それに伴って適用範囲も書きことばとしての英語 (written English) に及んでいる¹⁾。したがって、新情報・旧情報という概念は、話された談話 (spoken discourse)、書かれた談話 (written discourse)、双方の談話に適用されると考えるのが妥当なようである。

そうすると、新情報・旧情報は、おおむね、次のように概念規定することができる。新情報とは、談話のうち、受信者 (聞き手または読み手) が、まだ知らない、あるいは、知っていても発信時に受信者の意識にないと発信者 (話し手または書き手) が想定している部分を表し、旧情報とは、談話のうち、送信者と受信者との間で、すでに述べられたこと、発話の場面、言語外の知識によってすでに了解事項となっていると送信者が想定している部分を表す²⁾。

したがって、送信者は、このように規定される新情報・旧情報を談話の中で適切に配列して、効果的な情報伝達を意図することになる。そうすると、このように新情報・旧情報の概念を用いて談話分析するということは、送信者と受信者を媒介として行われる情報伝達という枠

組みの中で談話分析を行うということになる。

2 分析事例と問題点

次に、実際の分析事例の中で、新情報・旧情報の概念がどのように用いられているかを概観しておこう。ここで対象となる倒置構文というのは、本来ならば、文末に置かれるべき要素が、文頭に前置され、その前置された要素の後で動詞と主語の倒置が行われた場合で、前置される要素によって、Aタイプ（形容詞句の場合）、Bタイプ（方向を示す副詞（句）の場合）、Cタイプ（場所を示す前置詞句の場合）、Dタイプ（分詞句の場合）³⁾ に下位区分される。

2.1 Aタイプ（形容詞句の場合）

(1) Fukuchi (1985)

It is well known that Columbus made his first voyage to America in 1492. But less well known is his last voyage.

2番目の文で前置されている形容詞句 *less well known* のうち *well known* の部分がそのまま最初の文に出ている。したがって、その形容詞句の中に旧情報を伝える部分があり、それが文頭にあるために前文との意味的なつながりがスムーズになっていると言える⁴⁾。

2.2 Bタイプ（方向を示す副詞（句）の場合）

(2) Fukuchi (1985)

I drove up the driveway and got out of my car. Just as the car door closed, I heard the main door to the house open. Out of the house stepped the Sheriff.

前置された副詞句 *out of the house* は、その前の文の内容と意味的に深いつながりがある。つまり、この副詞句の部分は、前の文の *the main door to the house open* からの間接的な旧情報を担っている。また、後置主語 *the Sheriff* は、新情報を担い、伝達の中心となる⁵⁾。

2.3 Cタイプ（前置詞句の場合）

(3) Mōri (1983)

In the Italian garden stood an elegant fountain.

この文の発話の直前では、〈庭の存在〉だけが既知情報である。しかし、In the Italian garden ... まで発話された時点で、はじめて「その庭に何かがあった」という期待感をもつ。その時点で In the Italian garden stood x、が既知情報となり、文をいいおわったときに、an elegant fountain が新情報となる。

2.4 D タイプ (分詞句の場合)

(4) Murata (1981)

Standing next to me was the president of the company.

論文調の英語に見られる倒置⁶⁾で、比較的長い修飾語句を伴う主語に文末焦点（つまり、新情報）を与えるために、述語が文の前面に押し出されている。

事例(2)以外は、前置された要素あるいは後置された要素どちらか一方にしか言及していないという不十分な点はあるが、以上の説明を一般化して表してみよう。前置された要素をX、後置された要素をYで表せば、Xは、先行文脈と直接的または間接的に意味上つながりをもっていて、旧情報を担うことになり、先行する文とのつながりを円滑にする役目を果たす。他方、Yは、文末に置かれることになり、文末は文末焦点の位置にあるので、新情報を担い、情報の焦点となる。換言すれば、送信者は、その伝達内容を、受信者に効果的に伝えるために、二つの戦略 (strategy) を用いているのである。一つは、送信者の伝えたい内容を受信者が受け入れやすいように旧情報を新情報より先に配列することであり、もう一つは、送信者の伝えたい内容に受信者の注意を向けさせる、つまり、文末の要素が談話の中で（最も）重要な注目すべき部分であるということを、受信者に告げ、そこに注意を向けさせるために、文末焦点の原理 (principle of end-focus) を用いることである。

以上のように、諸家の分析事例における新情報・旧情報という概念は、第一節で触れたように、効果的な情報伝達という一般的な図式の中で扱われていることがわかる。

が、上述の事例を見ていると、すぐに、新情報・旧情報の概念は、すべてどの談話の言語形式の機能分析にも適用できるのであろうかという疑問が生じてくる。なぜなら、上記の説明箇所から明らかなように、各事例における各々のタイプの倒置構文が現実には生起している談話は、異なっている⁶⁾にもかかわらず、それらの構文の機能分析を新情報・旧情報という単一の概念を用いて処理しようとしているからである。この新情報・旧情報の概念が適用可能な談話と適用不可能な談話が存在するのではないであろうか。また、新情報・旧情報の概念の適用可

能・不可能な談話が存在するとすれば、それぞれの倒置構文のタイプとそれらの談話との関係はどうであろうか。

例えば、事例(2)を考えてみよう。この事例は、Gary (1976) の中の例文から引用したものであるが、もとは Macdonald (1968) の小説の一節で、Bタイプの倒置構文が、書かれた物語的談話(written narrative discourse) の描写的部分 (description) に生起しているものである。この描写的部分というのは、登場人物あるいは語り手が目に入るものをそのまま反映している部分で、このような談話部分における言語形式を分析するのに、果して、情報伝達の枠組みを前提とする新情報・旧情報の概念が貢献し得るのであるか。

また、事例(1)・(3)・(4)の場合は、どうであろうか。それぞれ、新情報・旧情報の概念で処理できるのであるか。

3 新情報・旧情報の概念が適用可能な談話と適用不可能な談話

ここでは、各々のタイプの倒置構文が現実に生起している談話を、実例を用いて検討しながら、新情報・旧情報の概念が適用可能な談話・不可能な談話とはどんな談話かを、また、各倒置構文のタイプとそれらの談話との関係を検討してみる。一般に、Aタイプの倒置構文は、主題的倒置構文⁹⁾ (thematic inversion sentence) に属し、B・C・Dタイプの倒置構文は、提示文 (presentational sentence) に属する¹⁰⁾ とされているので、以下、別個に取り扱っていく。

3.1 Aタイプの場合

まず、Aタイプの倒置構文が、現実に生起している談話をみてみよう。このタイプの倒置構文は、主題的倒置構文と呼ばれ、さらにいくつかのタイプに下位分類されるが、説明の便宜上、ここでは形容詞の場合だけ取りあげることにする¹¹⁾。

- (5) Shortly before Gorbachev announced a June 1 crackdown on the nation's debilitating alcoholism problem, an American diplomat ... said that by noon a large part of the Soviet work force was too drunk to work. Perhaps most serious is the oil industry, where the output of the world's largest producer has gone into a slide for the first time. (M. D. N.₁)
- (6) The term which is in general use for the relation between lexical items whose meaning conflict is antonymy, oppositeness of meaning. But this is not a very helpful term since there are many ways in which lexical items can stand in opposition to each other. ... More helpful is the devison of incompatibility rela-

- tions into four types. (Kempson: 84)
- (7) AT & T (American Telephone & Telegraph) profits in the next few years will depend more on its old phone business than its new computers. Critical to the company are oft-delayed flat fees for long distance service, called access charges. (Time: 43)
- (8) It was believed that it was the task of the linguist to provide rigorous empirical methods for establishing and classifying his linguistic elements. Fundamental to this was the investigation of the environments in which they occur. (Palmer: 92)
- (9) In the sentences we have examined thus far, in every instance the exclamatory sense of the sentence could be attributed to its counter-to-expectation properties. Implicit in this analysis is that this is the sole function of this particular type of transformed sentence. (Gary: 61)

以上のように、Aタイプの倒置構文は、論文、雑誌・新聞の記事等の説明的談話 (expository discourse) に生起していることがわかる。

Longacre (1974)・(1983) によれば、説明的談話の特徴は、主題志向 (subject matter orientation) と論理的結びつき (logical linkage) を重要視する点にある、とされている。つまり、この種の談話の目的は、送信者が、受信者に、ある主題を提示し、それを論理的順序に従って可能な限り明晰にかつ理解しやすいように説明して、その論点を納得させることにある。伝達という観点から言えば、この説明的談話は、me-talking-to-you のモデルに基づくもので、送信者と受信者の存在を前提とし、両者の間で直接的な接触の行われる談話である。したがって、この説明的談話は、情報伝達の枠組みを前提とする新情報・旧情報の概念にまさにぴったりと適合する談話であると言えよう。それゆえ、この談話に生起する倒置構文は、第二節の分析事例について一般化した情報伝達の図式がそのままあてはまる。

それでは、具体的に事例(5)を用いて、上述した説明的談話の目的を遂行するために、新情報・旧情報の概念がどのように使用されているかをみておこう。

前置された形容詞句 most serious は、前文の「正午までに、ソビエトの労働者の大部分は、ウオッカを飲みすぎて、仕事ができないようになっていいる」という事態を前提として、その事態との比較を主題化された最上級の形で、つまり、「その事態の中で最も深刻なものは」という形で表したものである。したがって、most serious は、前文の意味内容を受け継ぎ、前文とのつながりを滑かにしている¹²⁾。

一方、後置された主語 the oil industry は、is をはさんで、文末に置かれて同定化される対象となり、情報の焦点となっている。つまり、世界最大の産出量をほこり、これまで一度も

落ち込みのなかった oil industry でさえもそういう事態に陥っていることを示すために、oil industry を文末に置いて、そこに読者の注意を引きつけているのである。

さらに、事例(6)―(9)の倒置構文の場合にも、事例(5)について述べた説明と同種の説明が可能であるが、個々の詳細な説明は、紙幅の都合上、省略することにする¹³⁾。

このように、Aタイプの倒置構文、つまり、主題的倒置構文は、先に述べた説明的談話の目的にそぐうべく、先行談話とのつながりを円滑にする機能（旧情報がかかわっている）と、文末の要素に受信者の注意を向けさせる機能（新情報がかかわっている）、この二つの機能を同時に果たしていると言えよう¹⁴⁾。

以上のように、説明的談話は、新情報・旧情報の概念に適合する談話であり、それゆえ、その談話に常に生起するAタイプの倒置構文にも、この両概念が適用できる。

3.2 B・C・Dタイプの場合 (I)

まず、B・C・Dタイプの倒置構文は、典型的に物語的談話に生起する。この種の談話の言語現象を分析する際には、他の談話ジャンルとは異なった言語使用の仕組み、すなわち、視点の問題を導入した認識論的観点を忘れてはならない¹⁵⁾。つまり、物語的談話、厳密に言えば、物語的談話の描写的部分に生起する言語形式の機能分析を行っていく場合、当該の言語形式によって表されている事態が誰の視点から見たものであるかが重要な問題となるのである。この点を見過ぐすと、作者が本当に意図した表現効果を十分に咀嚼し得ないという事態に陥ることになる。

以下、Bタイプ、Cタイプ、Dタイプの場合を、順次、具体例でみておく。

3.2.1 Bタイプ（方向を示す副詞（句）の場合）

(10) Lionel ... lifted Ulysses so that he too could see the small green object. Having seen the green apricot, Ulysses squirmed, got down, and then ran for home, not disappointed, only eager to tell someone. Now, out of his store, stepped Ara himself. (Saroyan: 121)

(11) The double door now parted. Out came the flight crew, jabbering about the fantastic roast beef at Durgin-Park. (Segal: 36)

(10)は、登場人物 Ulysses の視点が支配する場面である。緑色のあんず (green apricot) を見たその感激を誰かに告げたいと思い、家路についていると、Ara の店から人が出てくる。その人物は、店主の Ara 自身であった、という脈絡である。この倒置構文では、Ulysses が、Ara の店から出てきた人物を知覚して、その人物が Ara 自身であることがわかったというこ

とが示されている。

(11)は、登場人物 Bob の視点が支配する場面である。庶子の Jean-Claude が、税関から出てくるのを今か今かと待っていると、やっと、税関の両開きドアが開く。そこから出てきた人物は、飛行機の乗務員で、何やら早口でロースト・ビーフのことをしゃべっている、という脈絡である。この場合、倒置構文は、Bob が、税関のドアから出てきた人物を知覚して、その人物が飛行機の乗務員であることがわかったということを表している¹⁶⁾。

以上のように、Bタイプの倒置構文は、知覚者が、ある場所から出現した対象を知覚して同定化するという認識過程を反映するものであると言えよう。

3.2.2 Cタイプ（前置詞句の場合）

(12) Several feet from the table, Michael came to a sudden halt. He raised a hand to shield his eyes from the glare of the drop light. Beyond the table stood a gaunt young American who was watching the players dispassionately, and slowly winding a red cloth around his head. (Corder: 177)

(13) John started down the hill. Linda went back into the trailer. On a street above the trailer, a little up the rise, partly concealed by trees, stood a solitary figure who had watched the departure. (Corder: 132)

(12)は、登場人物 Michael が、テーブルから数フィート離れた所で立止り、つりランプの光がまぶしいのでそれを手で遮りながら、テーブルの向こう側を見ている場面である。この倒置構文では、Michael が、まず、テーブルの向こう側に視線を向け、その場所での状態を知覚し、さらに、やせ細った若いアメリカ人 (gaunt young American) へと視線を動かしている様子が示されている。

(13)は、どの登場人物の視点も感知されない場面、つまり、語り手の目から見た事態が描写されている場面である。この倒置構文では、語り手が、Linda の戻って行ったトレーラーからそのトレーラーの上の方にある通りへと視線を転じ、次に、その通りにおける状態を知覚し、さらに、その寂しそうな人影 (solitary figure) へと視線を動かしている様子が描かれている。

以上のように、Cタイプの倒置構文は、知覚者が、存在の場所→そこでの状態→その場所に存在する対象へと視線を動かしている様子を、すなわち、知覚者の知覚の順序を如実に反映するものと言えよう。

3.2.3 D タイプ (分詞句の場合)

- (14) "... and I'm a modest woman," she (=Mrs. Stokis) was saying now, eyes straight ahead, neck upright. Coming toward her was Miss Henderson from the Circulation Department. "Get our wallet out!" repeated Mrs. Stokis, gaze fixed on Miss Henderson. (Kotzwinkle: 141)
- (15) The thick oak doors opened suddenly, and Annie froze on the spot, her mouth open in astonishment. Standing in the doorway, almost filling it was the tallest man Annie had ever seen. (Fleischer: 42)

(14)は、登場人物 Mrs. Stokis の視点が支配する場面である。“... and I am a modest woman”と言っていると、自分の方に近づいてきている人物が目に入ってくる。よく見ると、その人物は、Miss Henderson だった、という脈絡である。つまり、倒置構文では、Mrs. Stokis が、近づいてきている人物を知覚して、厳密に言えば、凝視して、その人物が、Miss Henderson であることがわかったということが示されている。

(15)は、オーク製のドアが開いた時、そこに立っている人物を、Annie が、驚いてじっと見つめている場面である。突然、オーク製のドアが開いたので、背の低い Annie の目にまず入ったのは、そこに立っている人物の立っている状態である。したがって、この倒置構文では、Annie が、その人物の立っている状態を凝視しながら、その人物を同定化していく過程が描かれている。つまり、戸口に立っている人物を凝視しながら、その人物がこれまでに見たことのないような背の高い男であったということが示されている。

以上のように、Dタイプの倒置構文は、知覚者が、ある動作を行なっている対象を知覚して同定化したり、ある場所における状態を知覚しながらその対象を同定化するという認識過程を反映するものであると言えよう。

3.2.4 B・C・D タイプ (I) のまとめ

以上のように、物語的談話の描写的部分に生起する(B)–(D)タイプの倒置構文は、知覚者の視線の移動を伴う対象の知覚(知覚の順序)を、あるいは、知覚に基づく対象の同定化を反映していることがわかる。つまり、これらの倒置構文は、当事者の問題の時点で生起しているありのままの認識過程を如実に反映しているものである¹⁷⁾。

したがって、この種の倒置構文が生起する談話部分は、伝達という観点から言えば、me-talking-to-myself のモデルに基づくもので、どんな客観的な描写であっても、背後には、“語り”という行為を通じて、必ず語り手ひいては作者がいるという見解を認めるとしても、少なくとも、受信者は想定されない、送信者の一方通行的な伝達であると言えよう¹⁸⁾。

いずれにせよ、この談話部分は、送信者と受信者が直接向い合う部分とは考えられないので、両者の存在を前提とする情報伝達の枠組みでは処理できないことになる。したがって、物語的談話の描写的部分には、新情報・旧情報の概念は適用できないことになる。また、(B)―(D)タイプの倒置構文がこの談話部分に生じた場合、新情報・旧情報の概念では処理できないことになる¹⁹⁾。

3.3 B・C・Dタイプの場合 (II)

前節では、B・C・Dタイプの倒置構文が物語的談話に生じた場合をみたが、次の事例は、Aタイプの倒置構文と同様に、広い意味での説明的談話（以下で述べる物語的談話の説明的部分を含む）に生起している。

(16) Bタイプの場合

- a. Finally an Air Botswana C-130 landed and taxied up to the holding area. The rear cargo door swung open, and out walked three Russian airmen, a Cuban soldier and 94 Angolan troops. The bodies of four other Russians and a Cuban were also removed. (Reader's Digest: 39)
- b. From now on, whenever I get one of those pleading letters from a student—out goes the questionnaire. (Buchwald: 65)

(17) Cタイプの場合

- a. Beyond the realm of existing human languages lies that of possible languages, those that do not exist but could do. (Halliday: xxxv)
- b. The number of items affected is apparently less than in the market-opening measures announced in 1972, when tariffs on 1865 items were reduced by 20 percent. Among products taking special cuts were boneless chicken, palm oil and bananas, three symbolic items of particular concern to Southeast Asian countries. (M. D. N.₂)
- c. Jenny was taken aback by some of the portraits we passed by. ... At the end of the long row of portraits, and just before one turns into the library, stands a glass case. In the case are trophies. Athletic trophies. (Segal: 41)
- d. Just for a moment I even wondered whether Miss de Haviland had poisoned Aristide Leonides himself. ... It did not seem an impossible idea. At the

back of my mind was the way she had ground the bindweed into the soil with her heel with a kind of vindictive thoroughness. (Christie: 27)

(18) Dタイプの場合

- a. Let us refer to these as ‘neutral’ verbs. ... Contrasting with verbs of the neutral type (...) are those that reflect a more clear-cut treatment of an action as inherently, or preponderantly, of a two-participant type (‘transitive’, e.g. *throw*) or of a one-participant type (‘intransitive’, e.g. *swim*). (Kress: 163)
- b. It seems, then, that the weaker hypothesis of the application of passive must be adhered to, since both dominant and non-dominant NPs can be passivized. Requiring further investigation, however, is the difference between the use of (43) and (44) in discourse. (Erteschick-Shir: 457)

以上のように、(16) a は、雑誌の記事、(16) b は、エッセイ、(17) b は、新聞の記事の説明的談話に、(17) a と(18) a・b は、言語学に関する論文に、(17) c・d は、物語的談話の説明的部分²⁰⁾に生起している。したがって、これらの各々のタイプの倒置構文は、前節での B・C・D タイプの倒置構文とタイプこそ同じであるが、それらを構成する意味内容²¹⁾と生起している談話のジャンルが異なっているため、つまり、説明的談話に生起しているため、3.1 で指摘された A タイプの倒置構文についての説明がそのままあてはまる。

例えば、(16) a は、一見、前節の物語的談話の描写的部分に生起した事例に似ているが、意味内容とこの事例の生起している談話全体が説明的談話であるということを考慮に入れて吟味すれば、その差異に気がつく。この事例の倒置構文は、知覚者が、*cargo door* から歩いて出てきた *three Russian airmen, a Cuban soldier and 94 Angolan troops* を皆、順番に知覚したということを述べているのではなく、前文の *cargo door* を受け継ぎ、そこから歩いて出てきたのは、*three Russian ... and 94 Angolan troops* であると同定化し、そこに読者の注意を引きつける働きをしているものである。

また、(16) b では、「これから先、学生から様々な個人的内容についてのアンケートを要請する手紙を受け取ったら、(私から) 発送されるのは、(そのアンケートへの解答ではなく) さきほど説明した(わずらわしいあの) アンケート用紙ですよ」という、いわば威嚇の気持を示すために、文末に *the questionnaire* を置いて、そこに読者の注意を引きつけている。

他の事例についても、ほぼ同様のことが言えるが、紙幅の都合上、これ以上立ち入らないことにする。

ここで、前置された要素を X、後置された要素を Y で表して一般化すれば、X は、先行談話の内容を受け継いで旧情報を担い、円滑な談話進行に貢献する。Y は、文末に置かれて新情報を担い、何らかの点でそこに読者の注意を喚起させる働きをする、とすることができる。

したがって、B・C・Dタイプの倒置構文が、説明的談話に生じた場合、新情報・旧情報の概念に基づいて分析することができると言えよう。

4 ま と め

以上論じてきたことをすべて考慮に入れ、(A)–(D)タイプの倒置構文のすべての生起する談話を spoken (話されたもの) /written (書かれたもの), expository (説明的) /descriptive (描写的) のパラメーター (parameter) に基づいて分類すると、可能性として次の四つのタイプが考えられる。

- (a) spoken expository (b) spoken descriptive
- (c) written expository (d) written descriptive

そうすると、Aタイプの倒置構文は、(a)と(c)だけに²²⁾、B・C・Dタイプの倒置構文は、(a)・(b)・(c)・(d)すべてに生起するものと考えられる²³⁾。

このように考えると、新情報・旧情報の概念は、可能性として、各々のタイプの倒置構文が、話されたものであれ、書かれたものであれ、説明的談話に生起していれば適用できるということになる (すべてのタイプが(a)と(c)を共有している)。が、反面、B・C・Dタイプの倒置構文の場合、それらが物語談話の描写的部分 (b)と(d)に生起すれば、新情報・旧情報の概念では処理できない、別の談話機能を果たしていると考えられる。

そうすると、ここで第一節の終りに発した問——事例(1)–(4)は、それぞれ新情報・旧情報の概念で処理できるであろうか——に対する答は、おのずと明らかになるであろう。

事例(1)は、話されたものか、書かれたものか、また、談話のジャンルについても不明であるが、内容を見る限り、少なくとも、説明的談話に生起していると思われるので、新情報・旧情報の概念は適用できると言ってもよい。

事例(2)は、上述したように、書かれた物語談話の描写的部分に生起しているため、新情報・旧情報の概念は適用できない。

事例(3)は、話された談話に生起しているということはわかるが、どの談話ジャンルに属しているか不明なので、適用可否の判断はできない。

事例(4)は、論文調ということで、書かれた説明的談話に生起しているものと思われる。よって、新情報・旧情報の概念は適用できる。

が、既に第二節で考察したように、事例(2)―(4)における倒置構文、つまり、B・C・Dタイプの倒置構文は、物語談話、説明的談話、両談話に生起する可能性があるにもかかわらず、それぞれ、一方の談話に生起した場合しか取りあげられていない。それゆえ、上でみた解答は、それぞれの倒置構文の言語事実の半面しか答えていないということになる。要するに、生起している談話のジャンルを無視して、同一の新情報・旧情報という道具立て一本槍で、各々のタイプの倒置構文の機能をすべて説明しようとしてきたこれまでのやり方は、不適切なものであり、上で述べた理由により、言語事実の半面しか説明できない不完全なものであると結論づけることができるであろう。

各々の談話には、それなりのふさわしい言語使用の仕組みがあり、甲という談話にのみ適用できる特定の仕組みを乙という談話にも適用すると、後者の談話を統率する仕組みとは相容れない誤った分析を誘発することになる²⁴⁾。したがって、第一節で提示したそれぞれのタイプの倒置構文の分析事例(1)―(4)は、各談話にはそれにふさわしい言語使用の仕組みが備わっていると考えられるので、談話分析を行う場合、当該の言語形式がどのジャンルの談話に属するかを十分に吟味する必要があるという談話分析への一つの警告と提言を与えてくれる貴重な実例であると言ってよいであろう。

注

- 1) 当初の関心は、Halliday (1967) のように情報構造がイントネーション (intonation) にどのように実現されるかという点にあったが、最近では、情報構造が統語形式にどのように実現されるかという点に関心が移ってきている。詳細については、Brown and Yule (1985 : 153-189) を参照。
- 2) Chafe (1976), Yasui (1978) を参照。
- 3) ここでは、現在分詞だけを対象とする。
- 4) ここでは、後置された要素 (his last voyage) の談話上の機能については触れられていない。
- 5) この事例の出典は、Macdonald (1968) の小説の一節であるが、この部分が、読み手にとって新情報とか旧情報とか言って何の意味があるのだろうか。なお、注19) を参照。
- 6) 論文調の英語に限らず、3.2 で述べるように、物語談話にも生起する倒置構文である。
- 7) ここでは、述語、つまり、前置された要素の談話上の機能について言及されていない。
- 8) 具体的に各事例がどんな談話に生起しているかは、第四節「まとめ」を参照。
- 9) Seto (1983) では、主題的倒置構文は、2つの関連はするが異なったトピックを中心に持つ前半と後半との間に位置し、前後を円滑に結びつけるというトピック転換装置としての橋渡しの機能を担っている、と指摘されている。
- 10) Fukuchi (1985)・Murata (1981) では、Aタイプも提示文としている。が、Aタイプは、明らかに、Seto (1983) の言う主題的倒置構文の機能を果たすので、この指摘は、誤っている。
- 11) 他に、副詞+形容詞、現在分詞、過去分詞の場合が論じられている。詳細については、Seto (1983) を参照。
- 12) 形式面では、most serious は、most serious of this situation の of this situation が省略されたものと考えられる。
- 13) が、簡単に、説明を付記しておく。(6)では、more helpful が、先行文脈の antonymy との比較を述

- べ、(7)では、the company が、前文の AT & T を受け、(8)では、this が前文の to provide ... linguistic elements を受け、(9)では、this analysis が前文の the elementary sense ... its counter-to-expectation properties を受けて、先行文脈および先行文とのつながりを円滑にしている。一方、後置された要素は、何らかの点で、そこに読者の注意を喚起させる働きをしている。
- 14) Seto (1983) では、後置された要素 Y と後続文脈との密接な結び付きにも着目している。そうすると、この倒置構文は、三つの機能を同時に果たしていることになる。
- 15) 拙稿 (1984)・(1985) は、この認識論的観点に基づいて、分詞構文の Ing 形式の機能的特性を考察したものである。
- 16) なお、倒置構文の後の ing 構文 (jabbering about ...) は、Bob が、税関のドアから出てきた人物を知覚して同定化した後、さらに、その人物の行為を凝視している意識を反映している。詳細については、Yamaoka (1985) を参照。
- 17) 説明の便宜上、(00-05)の事例は、すべて、三人称小説の中から引用されたものであるが、全く同様なことが一人称小説についても言える。なお、一人称小説の場合、知覚者は、SELF (意識を行っている主体) としての “I” あるいは登場人物としての “I” となる。
- 18) Fillmore (1981) では、このような me-talking-to-myself のモデルに基づく談話部分を、monologic text と呼んでいる。
- 19) が、現実には、Fukuchi (1985)・Murata (1981) をはじめとして、物語的談話の描写的部分に生じた(B)一(D)タイプの倒置構文を新情報・旧情報の概念に基づいて分析を行っている。しかも、これらの諸家は、この種のタイプの倒置構文から、「臨場感を出すために物の動きを躍動感あふれるような述べ方をする」とか「ものごとをありのままに述べる」という印象を受ける、と言う。
- 新情報・旧情報の概念を用いた分析から、どうしてこのような印象が生じてきたのであろうか。なぜ、諸家は、この印象と結び付く分析の仕方をしなかったのであろうか。まさに、この直観的な印象こそ肝要なもので、この印象と直結する分析の仕方、つまり、視点の問題を導入した認識論的観点が必要となる。この種の倒置構文から直観的に生き生きとした、躍動感あふれる印象を受けるというのも、まさに、登場人物の立場から、われわれ読者が問題の事態を見ているからに他ならないのである。
- 20) 物語的談話の説明的部分というのは、作者が、物語における出来事についての what, how, why などを説明したり、出来事とか人物についてのコメントを加える部分で、作者が読者に直接語りかける部分である。
- 21) 眼前に起っている事態ではなく、何らかの形で問題の事態を説明しているという点が異なる。
- 22) 説明的 (expository) 談話とは、文語性 (literacy) を特色とするが、話された談話、書かれた談話、両方の談話を含む。したがって、(a)の spoken expository とは、政治的演説、説教、講演などを含む。(c)の written expository は、すでに述べた論文、新聞・雑誌の記事、エッセイの他に、歴史・伝記などのノンフィクションを含む。
- 23) ちなみに、Quirk et al. (1985:1380) では、B・Cタイプの倒置構文は、ordinary informal speech にも、ごくふつうに生起する、と指摘されている。また、次の事例のように、現実の会話とか物語的談話の会話部分にもしばしば見られる。
- (i) I told the secretary to go get the proper number of coffees. And so we waited expectantly for twelve cups of coffee. Somebody knocked at the door and in came the waitress, carrying twenty cups of coffee (NHK: The Guest Hour; 1985. 5. 4 放送)
- (ii) Then, says Curtis, “I was looking out the window, nearly suicidal, and in walks this girl. ...” (Time: 1983. 2. 7; p. 39)

24) 例えば、事例(2)がそうである。

参 考 文 献

- Brown, G. and G. Yule. 1983. *Discourse analysis*. Cambridge University Press.
- Chafe, W. L. 1976. "Givenness, contrastiveness, definiteness, subjects, topics, and point of view." In C. N. Li (ed.) *Subject and topic*. Academic Press.
- Dillon, G. L. 1978. *Language processing and the reading of literature*. Indiana University Press.
- Fillmore, C. J. 1981. "Pragmatics and the description of discourse." In P. Cole (ed.) *Radical pragmatics*. Academic Press.
- Fukuchi, H. (福地 肇) 1985. 『談話の構造』大修館。
- Gary, N. 1976. "A discourse analysis of certain root transformations in English." Indiana University press.
- Halliday, M. A. K. 1967. "Notes on transitivity and theme in English Part 2." *JL* 3, 199-244.
- _____. 1985. *An introduction to functional grammar*. Edward Arnold.
- Horn, V. 1977. *Compositon steps*. Newbury House Publishers.
- Longacre, R. E. 1974. "Sentence structure as statement calculus." In Brend (ed.) *Advances in tagmemics*. North-Holland.
- _____. 1983. *The grammar of discourse*. Plenum Press.
- Miyazaki, K. and Ueno, N. (宮崎清孝・上野直樹) 1985. 『視点』東京大学出版会。
- Mōri, Y. (毛利可信) 1983. 『橋渡し英文法』大修館。
- Murata, Y. (村田勇三郎) 1982. 『機能英文法』大修館。
- Nystrand, M. 1982. *What writers know: the language, process, and structure of written discourse*. Academic Press.
- Ohe, S. (大江三郎) 1984. 『英文構造の分析—コミュニケーションの立場から』弓書房。
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A comprehensive grammar of the English language*. Longman.
- Saigo, T. (西郷竹彦) 1975. 『文芸学講座 (I) 視点・形象・構造』明治図書。
- Seto, K. (瀬戸賢一) 1983. 「「主題的倒置文」の存在意義について」『大阪経大論集』155, 101-123。
- Yamaoka, M. (山岡 實) 1984. 「分詞構文における Ing 形式の機能的特性とその談話機能」『Queries』21, 23-36。
- _____. 1985. 「X, Ying 構文における Ying 形式の談話機能と表現効果について」『相愛大学論集』1, 119-136。
- Yasui, M. (安井 稔) 1978. 『新しい聞き手の文法』大修館。

例 文 の 出 典

- | | |
|----------|--|
| Buchwald | Buchwald, A. <i>A Treasure in American Humor</i> . 1977. Nanun-Do. |
| Christie | Christie, A. <i>Crooked House</i> . 1980. Fontana. |
| Corder | Corder E. M. <i>The Deer Hunter</i> . 1980. Coronet. |

- Erteschick-Shir Erteschick-Shir, N. "Discourse Constraints on Dative Movement." 1979. In T. Givón (ed.) *Syntax and Semantics* 12. Academic Press.
- Fleischer Fleische, L. *Annie*. 1982. Ballantine.
- Gary Gary, N. *A Discourse Analysis of Certain Root Transformations in English*. 1976. Indiana University press.
- Halliday Halliday, M. A. K. *An Introduction to Functional Grammar*. 1985. Edward Arnold.
- Kempson Kempson, R. M. *Semantic Theory*. 1977. Cambridge University Press.
- Kotzwinkle Kotzwinkle, W. *Superman III*. 1983. Warner.
- Kress Kress, G. *Halliday: System and Function in Language*. 1976. Oxford University Press.
- Macdonald Macdonald, R. R. *The Instant Enemy*. 1968. Bantom.
- Palmer Palmer, F. R. *Semantics*. 1976. Cambridge University Press.
- Saroyan Saroyan, W. *The Human Comedy*. 1967. Dell.
- Segal Segal, E. *Love Story*. 1971. Eikosha.
- Reader's Digest Reader' Digest. 1983. 11
- Time Time. 1984. 4. 23
- M. D. N.₁ Mainich Daily News. 1985. 6. 17
- M. D. N.₂ Mainich Daily News. 1985. 6. 26